

# 自立活動実態シート

小(中)高	3年	障害名	てんかん
教育課程	通常学級 重複学級・(重度重複学級)		

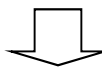
児童生徒の実態	<p><b>発達や経験の程度</b>          友だちや教員に対して自分から積極的にコミュニケーションをとろうとすることは少ない。          好きなことに関する話題で、同年代の生徒と話をすることはある。教員に対しては、年齢相応の受け答えができる。</p>
	<p><b>興味・関心・特性</b>          バスケットボールが好きである。          アニメやゲームに興味・関心があり、将来はゲームのシナリオライターになりたいと考えている。          疲れたり、精神的に不安定になると保健室に行って、休養したり、養護教諭の先生と話しをすることで回復できることもあるが、そのまま早退することもある。</p>
	<p><b>生活や学習環境</b>          欠席することはほとんどなくなったが、睡眠リズムが不安定で、登校時間が遅くなり、遅刻することが多い。          人前で食事をするのが苦手で、昼食の場所にはいるが、食べないか、飲み物だけのことがほとんどである。</p>

収集した情報を自立活動の区分に即して整理



健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
睡眠のリズムが不安定である。	人前で食事をとることができない。 (場と状況によって食事をとれる)	他の人に干渉されることがあまり好きでない。		運動は得意なほうである。	積極的に話しをすることがなく、言葉数も少ない。

いくつかの指導目標の中で優先する目標



指導目標	<p>生活のリズムを安定させる。          同年代の生徒とのコミュニケーションのスキルを身につける。</p>
------	--

指導目標を達成するために必要な項目



健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<p>いろいろな表現方法を体験する。</p>	<p>小集団でのゲームに参加する。</p>	<p>ストレスの軽減やリラックスの方法を体験する。</p>
----------	------------------------	-----------------------	-------------------------------

## 自立活動 事例シート

小・ <b>中</b> ・高	学年	3年	障害名	てんかん
タイトル(題材名)	①どんな気持ちか考えよう ②私は誰でしょうゲーム			
対象となる児童生徒の実態(タイプ)	人との関わりが苦手で、積極的にコミュニケーションをとることが難しい。			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が感じたことを文字やことばで表現できる。</li> <li>・自分や人の状況を考えて、適切な質問をする。</li> </ul>				
自立活動でねらうポイント					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

指 導 内 容	<p>① 活動の概要</p> <p>【どんな気持ちか考えよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を見て、そこに写っている人の表情や行動から、その人が何を考えているか、また、どんな状況であるのかを想像し、思ったことをワークシートに記入する。</li> <li>・生徒、教員ともにワークシートに記入した内容を発表し、いろいろな見方や考え方があってよいということを理解する。</li> </ul> <p>【私は誰でしょうゲーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれが自分の背中に貼ってある紙（自分の紙は見ることはできないが、他の人の紙はみることができる）に書いてある絵やことば（動物、単語、数字などジャンル別）を予想する。</li> <li>・質問は「はい」か「いいえ」で答えられるものを考え、他のみんなに答えてもらい、みんなの答えや反応を基に自分の紙に書いてあることを予想し、質問を絞っていく。</li> <li>・一人1回ずつ質問し、1周した時点でわかった人は解答する。正解した人は自分の紙を確認し、質問は終了となる。不正解の場合や、わからない場合は、再び1周、一人ずつ質問を繰り返す、全員が正解できるまでそれを繰り返す。</li> </ul> <p>②ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをことばで表現できるところ。</li> <li>・状況に応じて質問内容を考え、他のみんなに質問ができるところ。</li> </ul> <p>③留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを言うことに抵抗がなくなるように、先生たちも全員が話すようにする。</li> <li>・いろいろな考えがあってよいことを尊重する。</li> <li>・質問が難しい場合は、人に助けを求められるようにする。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをみんなの前で恥ずかしがらずに発表することができるようになった。</li> <li>・質問の仕方を工夫し、他の生徒が答えやすい質問を考えることができた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真によっては、表情の読み取りが難しく、気持ちを考えにくいものがある。</li> <li>・問題によっては、質問を考えるのが難しく、解答までに時間を要してしまうことがある。</li> </ul>

# 自立活動実態シート

小(中)高	3年	障害名	ADD(注意欠陥障害) 適応障害
教育課程	通常学級・重複学級・(重度重複学級)		

児童生徒の実態	発達や経験の程度
	A: 入院前は不登校であり、昼夜逆転の生活をしてきた。
	B: 一日活動を持続できるほどの体力が身につけていない。
	C: 同学年の生徒との関わりは希薄だが、教員には自ら話しかけてくることが多い。
	興味・関心・特性
	D: アニメやゲーム、カードゲームが好きである。
	E: 気になったことがあると、その場の話題に関係なく発言することがある。
	F: 自分本位の発言をして、周囲を不快にさせることがある。真面目に取り組んでいる生徒を冷やかすこともある。
	生活や学習環境
	G: 学年相応の学力はある。
H: 毎日ほぼ登校することができているが、体力が続かないときは欠席している。	
I: 欠席する理由を、相手がどう感じるか考えずに思ったまま感じたまま伝える。	
J: ゲームをするためには苦手な授業にも挑戦しようとする。	
K: 自分に必要のないと思われる授業には参加しないことがある。	

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

※G: 区分できず

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
B, H	D, I, J	C, E, F, I	A, K		C, E, F, I

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団活動の中で、他者の気持ちを考えて発言、行動することができる。</li> <li>・ 一貫した指導をおこない、他者との適切な関わりを伝える中で、意見を受け入れ、柔軟な考え方を身に付ける。</li> </ul>
------	--

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<集団活動(レクリエーション)> 新聞紙タワー、ジェスチャーゲーム  他者と意見を交わし、共通認識をもつ。	<個人活動> 学級旗づくり  自身のイメージを表現する。	<適切な人間関係を築くための一貫した指導>  教員が、適切な言葉遣いや他者の話を聞く姿勢の模範となる。不適切な発言などが見られた際に指導する。教員全員で共通理解をはかる。
----------	--	---------------------------------------	---



## 自立活動 事例シート

小・ <b>中</b> ・高	学年	3年	障害名	ADD（注意欠陥障害） 適応障害
タイトル（題材名）	新聞紙タワーをつくろう			
対象となる児童生徒の実態（タイプ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同学年の生徒とコミュニケーションを取ることが苦手である。とくに、他者の気持ちを考えずに発言することがあり、がんばっている生徒に向かって「あいつくそまじめやな」などの発言をすることがある。</li> <li>・自分の固執した考えがある時は、他者の意見を受け入れることが難しい。</li> </ul>			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを適切な言葉で伝える。</li> <li>・友だちの意見を受け入れながら、集団活動に取り組む楽しさを味わう。</li> </ul>
-----	--

### 自立活動でねらうポイント

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

指 導 内 容	<p>①活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1グループ3～4人にわかれ、新聞紙でタワーを作り、高さを競う。2回おこなう。</li> <li>・ どのようにすれば、高いタワーが作れるかをグループで話し合う。</li> <li>・ 1回目の後に、再度話し合いの場を設ける。</li> </ul> <p>② ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いの場で、他者の意見を聞き入れ、自分の考えを述べること。</li> <li>・ グループ活動をすることで、同学年の生徒と協力して活動するところ。</li> </ul> <p>③ 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループ分けに気をつける。進行役となる生徒や本生徒と仲の良い生徒を同じグループにする。</li> <li>・ 教員もグループに入る。活動前に、各教員に生徒の配慮点を伝えておく。</li> <li>・ 配慮しながら、グループ活動に参加するよう促す。</li> <li>・ 話し合いの場では、適切な言葉遣いや意見を聞く姿勢などのルールを提示する。</li> <li>・ 1回の活動ごとに、工夫した点を発表する時間を設け、表現の場をつくる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;">   </div>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じグループのメンバーに適切な言葉遣いで少しずつ話すことができるようになった。</li> <li>・ 同じグループのメンバーの意見を受け入れながら、自分の考えと折り合いをつけ活動に参加することができた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仲の良い友だち以外とも関わられるよう、グループ分けの工夫や定期的な活動の設定が必要である。</li> <li>・ 活動の中では、自分の意見を適切な言葉で伝えることができた。しかし、日常生活ではまだ課題が残るため、教員の意識を統一させて継続した指導が必要である。</li> </ul>

# 自立活動実態シート

小・中・高	3年	障害名	不登校・過敏性腸症候群
教育課程	通常学級 重複学級 ・ (重度重複学級)		

児童生徒の実態	<b>発達や経験の程度</b> A. しかられることを恐れ、自信をもつことができない。 B. 問いかけに対する反応が遅れる。 C. ものごとはっきりと決めることができない。
	<b>興味・関心・特性</b> D. アニメに興味があり、パソコンで好きなキャラクターを描くことができる。 E. ある高校(ネットを活用した高校)に強い関心を持ち、そこへの進学を希望している。 F. まじめだが融通が利きにくく、マイペースである。また、途中での変更が苦手である。
	<b>生活や学習環境</b> G. 週の登校回数(午後登校)を自分で決め、達成している。 H. 集団の中に入るのが苦手である。 I. 前籍校では部活動でのトラブルがきっかけで不登校となった。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

※E:区分できず

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	A D G	F H I			B C

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標	・週5回午前の1限から登校できるようにし、授業の出席時数を増やす。
------	-----------------------------------

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<b>〈本生徒の意識改善〉</b> ・受験生であるにも関わらず、現状ではかなり授業の出席時数が少ないことを、問題として意識づける。 ・現在の週4回登校で3限から授業を受けている状況を、週5回1限から授業を受ける方向に導く。 (※ 午前 1・2・3限、午後 4・5・6限)	<b>〈みんなで楽しく昼食〉</b> ・分教室で昼食をとることに抵抗があるようなので、みんなで昼食をとることの楽しさに気づかせる。 ・楽しい学校生活を経験させ、徐々に授業の出席時数の増加につなげる。	<b>〈分かりやすい授業〉</b> ・本生徒にとって分かりやすい授業を心がけ、授業への意欲を向上、持続させる。 ・時々、ユーモアやだじゃれ等を入れてリラックスして授業を受けられるようにする。
----------	--	---	---

自立活動 事例シート

小・ <b>中</b> ・高	学年	3年	障害名	不登校・過敏性腸症候群
タイトル（題材名）	みんなで楽しく昼食			
対象となる児童生徒の実態（タイプ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中に入るのが苦手。とくに初対面の相手に対して、どのように接すればよいか分からない。</li> <li>・自分で目標を決め、達成しようとする事ができる（ex. 登校回数/週）。</li> </ul>			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いを表現することで居心地のよい学校生活を体験し、登校日と授業の出席時数を増やすことにつなげる。</li> </ul>
-----	--

自立活動でねらうポイント

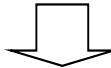
健康の保持 ① ② ③ ④	心理的な安定 ① ② ③	人間関係の形成 ① ② ③ ④	環境の把握 ① ② ③ ④ ⑤	身体の動き ① ② ③ ④ ⑤	コミュニケーション ① ② ③ ④ ⑤
------------------	-----------------	--------------------	--------------------	--------------------	------------------------

指導内容	<p>① 活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼食時に弁当の中身を話題（きっかけ）にして話を引き出す。</li> <li>・教員が徐々に本生徒の大好きなアニメに話題を移し、これまでに描いたキャラクターや好きなキャラクターの描きかた等について話してもらう。</li> <li>・教員から質問してみたり、他の児童生徒に質問を促したりする。</li> <li>・最終的には登校日と授業出席時数を増やすことにつなげる。</li> </ul> <p>② ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し出すきっかけのスムーズな提供（各児童生徒のおかず）。</li> <li>・お弁当がおいしそうと話が盛り上がるころ。</li> <li>・話の主演に導き、本生徒が自分の話をする場面。</li> </ul> <p>③ 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めは、話すことに抵抗のない他の児童生徒から話を引き出すようにする。</li> <li>・話しやすい気軽な雰囲気づくりに努める（弁当のおかずを話題に）。</li> <li>・アニメ以外の話題も話し合えるよう準備しておく。（ex. 進路・地元校・地元での交友関係など）</li> <li>・楽しい時間を感じさせる。</li> </ul>								
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの指導や同級生の存在により、昼食時に自ら話し出すことができるようになってきている。</li> <li>・転入以来、学校生活も徐々に居心地のよいものになっている。その結果、各学期ごとに登校日数・時間が増えてきている。（下記参照）</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td style="text-align: center;">[期]</td> <td style="text-align: center;">[登校日数]</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2年2学期</td> <td style="text-align: center;">週2日 午後のみ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2年3学期</td> <td style="text-align: center;">週3日 午後のみ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3年1学期</td> <td style="text-align: center;">週4日 午後のみ（学期途中より、午前の最後より登校できた）</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年2学期からは週5回、1限目から登校したい旨を発言し、前向きな態度が見られている。</li> <li>・現在欠席は少ないので、2学期からの毎日フルタイムの授業参加は期待できそうである。</li> </ul>	[期]	[登校日数]	2年2学期	週2日 午後のみ	2年3学期	週3日 午後のみ	3年1学期	週4日 午後のみ（学期途中より、午前の最後より登校できた）
[期]	[登校日数]								
2年2学期	週2日 午後のみ								
2年3学期	週3日 午後のみ								
3年1学期	週4日 午後のみ（学期途中より、午前の最後より登校できた）								
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての集団や個人であっても、自分からかかわることができるようになる。</li> <li>・自分の思いを頭の中で整理して、順序だてて話す。</li> </ul>								

# 自立活動実態シート

小・ <b>中</b> ・高	2年	障害名	ASD
教育課程	通常学級・重複学級・(重度重複学級)		

児童生徒の実態	<b>発達や経験の程度</b> 不登校での病院入院に伴う中学校通常学級からの転入学で、知的障害はない。 ASDの特性による社会性の欠如、コミュニケーションの取りにくさがあり、そのことに起因する生きづらさを有する。
	<b>興味・関心・特性</b> 行動面での落ち着きのなさは目立たないが、思考は飛躍しがちである。 一度入った情報からの切り替えが難しい。
	<b>生活や学習環境</b> 入院中は比較的規則正しい生活ができているが、家庭に戻ると睡眠時間が安定せず、生活リズムが不安定となる。



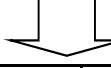
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
睡眠のリズムが不安定であるが、入院中は規則正しい生活ができている。	優先順位をつけて要領よく作業をすることが苦手。マニュアルや枠組みがあれば安心できる。	集団参加については、ソーシャルスキルアップが課題。マイペースな行動が目立つ。			対人面は、実年齢よりかなり幼く、コミュニケーションスキルには未熟さが目立つ。

いくつかの指導目標の中で優先する目標



指導目標	他者の意見を受け入れたり、自分の考えを伝えたりして適切に行動できる体験を増やす。 睡眠・覚醒のリズムを中心に、生活のリズムを安定させる。
------	---

指導目標を達成するために必要な項目



健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	<p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③</p> <p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p>	<p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③</p> <p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p>	<p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③</p> <p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p>
	<p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③</p> <p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p>	<p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③</p> <p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p>	<p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③</p> <p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p>

## 自立活動 事例シート

小・ <b>中</b> ・高	学年	2年	障害名	ASD
タイトル（題材名）	コミュニケーションをとろう「アグレッシブとアサーション」			
対象となる児童生徒の実態（タイプ）	行動面での落ち着きのなさは目立たないが、思考は飛躍しがちである。対人面、社会性は年齢よりもずいぶん幼く、集団参加についてのソーシャルスキルアップが課題。マイペースな行動が目立つ。一度入った情報からの切り替えがしにくく、優先順位をつけて要領よく作業することが苦手。手順、方法等枠組みやマニュアルがあれば、安心して行動できる。入院中は規則正しい生活が送れている。			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサーティブな伝え方を学習する。</li> <li>・ロールプレイに楽しく参加する。</li> <li>・自分の意見や感想が言えたり、人の話が聞ける。</li> </ul>
-----	--

### 自立活動でねらうポイント

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

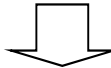
指導内容	<p>①活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分を知ることを実際の場面での行動と結び付け、ストレスマネジメントの方法を身に着ける。</li> <li>・ 小集団の中でのロールプレイを通して適切なコミュニケーションの取り方を学ぶ。</li> <li>・ 自分で考え、意見を言い、行動して受け入れられる経験を重ね、自己肯定感を高める。</li> </ul> <p>②ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のストレス、相手のストレスを考え、言いたいことが最小のストレスで伝わる方法を学ぶ点</li> <li>・ ロールプレイで自分の傾向を振り返る点</li> <li>・ 指導者の寸劇を見たり、ロールプレイを行ったりすることでアサーティブな言い方を学ぶ点</li> </ul> <p>③留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒に伝える内容については、パソコンとモニターを活用し、できるだけ視覚化して提示する。</li> <li>・ 発問を工夫し、生徒に意見を求めたり、質問をはさんだりすることで、理解度を高める</li> <li>・ 自分の気持ちを言うことは悪いことではなく、伝え方が大切であることを理解させる。</li> <li>・ 生徒のロールプレイでは、セリフを補い、できるだけ実感が味わえるようにする。</li> <li>・ 授業の最後には全体で感想をシェアさせ、前向きな評価を返す。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 寸劇やロールプレイを取り入れることで、ASDの特性のある生徒にはわかりやすい授業となった。</li> <li>・ ロールプレイや発表の場で自分の考えを言葉にさせることで、自己理解が深まるとともに、指導者側にも授業内容の理解度や本人の認知の特徴がよくわかった。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同学年（中2）の生徒が少数のため、小6から中3まで複数の学年にまたがる集団での授業を行わざるを得ない状況があった。一斉授業において、個々の児童生徒の学年や発達段階を踏まえての活動内容については、今後検討する必要がある。</li> <li>・ 指導者のファシリテーターとしての力量を向上する必要がある。</li> </ul>



# 自立活動実態シート

小(中)・高	2年	障害名	LD
教育課程	通常学級・重複学級・(重度重複学級)		

児童生徒の実態	<b>発達や経験の程度</b> 不登校での病院入院に伴う中学校通常学級からの転入学で、知的障害はない。LDがあるため、特に書字が困難で、そのことに起因する生きづらさを有する。
	<b>興味・関心・特性</b> 集団の中では、リーダーシップを取りたがり、他者への干渉が過ぎることがある。
	<b>生活や学習環境</b> 入院中は比較的規則正しい生活ができているが、運動量が少なく、体力がついていない。



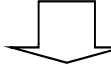
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
入院中は規則正しい生活ができているが、登校できていないことが多いため、運動量が不足し、体力がついていない。	LDによる書字障害があるため、成育歴の中での自己肯定感の低下が顕著である。	集団の中では自分の優位性を主張し、他者への干渉が過ぎることもある。			LDによる書字障害があり、代筆等の支援が必要であるが、支援の必要性を適切に伝えるスキルを身に着ける必要がある。

いくつかの指導目標の中で優先する目標



指導目標	他者の意見を受け入れたり、自分の考えを伝えたりして適切に行動できる体験を増やす。 パソコンなど適切な支援機器を活用して書字の障害を補い、自己肯定感を向上させる。
------	---

指導目標を達成するために必要な項目



健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	「音楽に合わせてランニング」自分で曲を選択し、自分のペースで走ったり歩いたりし続ける。	「だるまさんがころんだ」日本の伝統的な遊びをアレンジして、自己コントロールを促す。	「倒してたまるか」円になり、自分のポールを放して隣のポールを倒さないように持つ。メンバーで打ち合わせをして、円を少しでも大きくしていく。
----------	---	---	--

## 自立活動 事例シート

小・ <b>中</b> ・高	学年	2年	障害名	LD
タイトル（題材名）	運動を通して身体や感情の自己コントロール力をつけよう			
対象となる児童生徒の実態（タイプ）	生活リズムの乱れから、登校できないことが多い。運動量が少なくなりがちで、体力もついていない。集団の中ではリーダーシップをとろうとして他者への干渉が過ぎることもある。書字が著しく困難なため、キーボードや代筆等の支援が必要である。			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ しっかり体を動かし、心身を活性化させる。</li> <li>・ 自己コントロールをしながら、ルールやマナーを守って活動に参加する。</li> <li>・ 肯定的な声掛けを行い、楽しい雰囲気で行う。</li> </ul>
-----	--

### 自立活動でねらうポイント

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② <b>③</b> ④	① <b>②</b> ③	① ② ③ <b>④</b>	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ <b>⑤</b>

指 導 内 容	<p>①活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「音楽に合わせてランニング」：自分で曲を選択し、時間の見通しを持ちつつ自分のペースで走る。</li> <li>・ 「だるまさんがころんだ」：伝統的な子どもの遊びを少しアレンジして取り組む。</li> <li>・ 「倒してたまるか」：一人ずつ自分のポール（長さ50cm程度の棒）を床に立てた状態で支え、一斉に自分のポールを放して隣の人のポールを倒さないように持つ。iPadで撮影した動画を見て意見を交わしながら、うまくできる方法を見つけていく取組。</li> </ul> <p>②ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感覚刺激で覚醒レベルを上げ、日ごろの生活の中で不足している運動量を補うことができる点</li> <li>・ 集団の取組の中で、自分の身体の動きを意識できる点</li> <li>・ 自己コントロールしながら、ルールやマナーを守る意識が醸成される点</li> <li>・ 他者の意見を傾聴するスキルが育つ点</li> </ul> <p>③留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒に伝える内容については、パソコンとモニターを活用し、できるだけ視覚化して提示する。</li> <li>・ 集団に参加しにくかったり、ルールを逸脱する生徒がいた場合は、中心指導者以外の指導者が介入し、参加を促したり、行動を修正したりする。</li> <li>・ 授業の最後には全体で感想をシェアさせ、達成できた目標を視覚的に提示するとともに、前向きな評価を返す。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小集団で楽しく活動することで、生徒の参加へのモチベーションを上げることができた。</li> <li>・ 身体の動きや感情をコントロールして他人と関わる取組を通して、個々の生徒の「自己コントロール力」に迫ることができた。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同学年（中2）の生徒が少数のため、小6から中3まで複数の学年にまたがる集団での授業を行わざるを得ない状況があった。一斉授業において、個々の児童生徒の学年や発達段階を踏まえての活動内容については、今後検討する必要がある。</li> <li>・ 指導者のファシリテーターとしての力量を向上する必要がある。</li> </ul>



## 自立活動 実態シート

小・ <b>中</b> ・高	2年	障害名	広汎性発達障害 適応障害
教育課程	(通常学級) ・ 重複学級 ・ (重度重複学級)		

児童生徒の実態	<p><u>発達や経験の程度</u> 書くこと、読むこと、聞くこと、計算することなどに遅れは見られない。 大勢の前で話したり、発表をしたりすることが苦手で、小さな声で話す。</p> <p><u>興味・関心・特性</u> 折り紙や工作など、ものづくりが好き。 気の合う友達と一緒に遊ぶのが好き。楽しくなると、状況を考えずに走り出すことがある。 自分の気持ちを言葉で伝えたり、気持ちを表情に出したりすることが苦手。 納得できないことや分からないことがあると気持ちが不安定になり、学校を欠席することがある。</p> <p><u>生活や学習環境</u> 当番などの決められた仕事を、忘れずに行うことができる。 「自分のもの」に対するこだわりが強く、物を貸したり、譲ったりすることに抵抗がある。</p>
---------	--

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	活動への見通しがもちにくい。 不安の原因を、言葉で伝えることができない。	任された仕事を忘れずに行う。 こだわりが強い。 感情が表情に表れにくい。			自分の気持ちを言葉で伝えるのが苦手。 声が小さい。

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標	自分の気持ちを、学年や授業担当に伝えることができる。 声の大きさを意識して、友達や教師と話することができる。
------	---

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	その時間に取り組むことを知り、活動の目標を立てる。	個人または小グループで、太鼓の練習をする。 グループ全体で演奏を合わせたり、発表の通し練習をしたりする。	練習の後、グループで集まって頑張ったことやできたことを共有する。
----------	---------------------------	---	----------------------------------

### 自立活動 事例シート

小・ <b>中</b> ・高	学年	2年	障害名	広汎性発達障害、適応障害
タイトル(題材名)	文化祭で太鼓を演奏しよう			
対象となる児童生徒の実態(タイプ)	困っていることや考えていることを伝えたり、大勢の前で発表をしたりすることに対する苦手感が強い。			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しをもち、目標をもって活動に取り組めるようにする。</li> <li>・分からないことを自分から聞いたり、自分の気持ちを伝えたりできるようにする。</li> </ul>				
自立活動でねらうポイント					
健康の保持 ① ② ③ ④	心理的な安定 ① ② <b>③</b>	人間関係の形成 ① ② <b>③</b> ④	環境の把握 ① ② ③ ④ ⑤	身体の動き ① ② ③ ④ ⑤	コミュニケーション ① <b>②</b> ③ ④ ⑤

指導内容	<p>① 活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その時間に取り組むことを知り、活動の目標を立てる。</li> <li>・個人または小グループで、太鼓の練習をする。</li> <li>・グループ全体で演奏を合わせたり、発表の通し練習をしたりする。</li> <li>・練習の後、グループで集まって頑張ったことやできたことを共有する。</li> </ul> <p>② ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師の模範演奏を聞き、難しい演奏法に挑戦することを決めるところ</li> <li>・毎回、練習の前に、自分の目標を決めるところ</li> <li>・練習の終わりに振り返りをし、できたことを発表して、できたことを全体で共有するところ</li> </ul> <p>③ 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組む内容やその時間の目標を、その時間で達成できる具体的な内容にする。</li> <li>・手本の演奏をビデオで見ながら練習することで、イメージをもちやすくする。</li> <li>・困っていることを具体的に伝えられるよう、選択肢をあげて質問をする。</li> <li>・練習に対する前向きな感想が言えたときには、大いに褒める。</li> </ul>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師から指導を受けた際に奏法を紹介され、「やってみたい。」とすることができた。目標を決めてからは、ビデオを確認して、意欲的に練習に取り組むようになった。</li> <li>・「もう一回やります。」「見える位置に立って、手本を示してください。」と伝えるなど、自分の思いを具体的に伝えることができた。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掛け声を出す場面で、決まったタイミングで声を出すことが難しかった。自信をもって声を出せるようスモールステップを踏んで練習に取り組むようにする。</li> <li>・練習を繰り返し行う中で、周りの友達と積極的に関わることは難しかった。グルーピングを工夫したり教師が仲介役に入ったりして、友達と関わる場面を設定する。</li> </ul>

## 自立活動 実態シート

小・ <b>中</b> ・高	1年	障害名	自閉症スペクトラム障害、小児期反応性愛着障害
教育課程		訪問教育	

児童生徒の実態	<p><b>発達や経験の程度</b> 興味関心の幅が狭く、好きなことは積極的に話す但那以外話題にはあまり話すことは少ない。小学生低学年程度の漢字を書いたり、読んだりすることができる。簡単な、かけ算ができる。</p> <p><b>興味・関心・特性</b> 集団で移動している時でも、掲示物など目に見える新しい刺激に気をとられて注意が逸れ、行動が遅れる。 自分から話しかけることはないが、友達と一緒に活動をしたい気持ちをもっている。</p> <p><b>生活や学習環境</b> 小学校4年生後半から挑発行動が多くなり、思い通りにならないと母親を叩くようになる。母親、父親ともに、本児が言うことを聞かないと手をあげることがあった。 小学6年生の後半から登校できなくなり、中学生になると母親と一緒に登校するが授業には入れず、友達と関わる場面もなかった。</p>
---------	--

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	初めてのこ と、わから ないことが あると、不 安で固まる。	家族以外の人 との関わりが ほとんどない。	経験が少なく、 活動の見通しを 持ちにくい。	行動がゆっく りで、集団の活 動から遅れが ち。	自分の気持ち を表す言葉も っておらず、 表現できない。

いくつかの指導目標の中で優先する目標

指導目標	目標時間数、落ち着いて学習に取り組めるように支援する。 ペアや小集団などの学習に参加できるように支援する。
------	--

指導目標を達成するために必要な項目

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
① ② ③ ④	① ② ③	① ② ③ ④	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤	① ② ③ ④ ⑤

選定された項目を関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	教師や友達と、会話をしながら一緒に登校をする。	友達とペアで抹茶たて体験をする。	3、4人の集団で、和菓子作りをする。
----------	-------------------------	------------------	--------------------

## 自立活動 事例シート

訪問教育（中）	学年	1年	障害名	自閉症スペクトラム障害 小児期反応性愛着障害
タイトル(題材名)	日本文化を知ろう			
対象となる児童生徒の実態(タイプ)	原籍校では不登校で周りの友達とほとんど接点がなかった。自分から人に話しかけることは少ない。			

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアや小集団の活動に慣れる。</li> <li>・自分から友達に話しかける。</li> </ul>				
自立活動でねらうポイント					
健康の保持 ① ② ③ ④	心理的な安定 ① ② ③	人間関係の 形成 ① ② ③ ④	環境の把握 ① ② ③ ④ ⑤	身体の動き ① ② ③ ④ ⑤	コミュニケー ション ① ② ③ ④ ⑤

指 導 内 容	<p>① 活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と2人組をつくり、抹茶をたてたり、抹茶を飲んだりする。</li> <li>・3、4人の小グループで、友達と協力しておはぎを作る。</li> </ul> <p>② ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と友達と一緒に登校する間に会話をしたり、学習を行ったりするところ。</li> <li>・友達とペアになり、相手のために抹茶をたてたり、自分のために作ってもらったりするところ。</li> <li>・小グループで友達と役割を分担し、協力しておはぎを作るところ。</li> </ul> <p>③ 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、活動のめあてを具体的に伝える。 (友達と会話をする、ペアで活動すること、グループで協力すること など。)</li> <li>・会話をスムーズに行えるよう、あいさつを書いた紙をホワイトボードに掲示する。</li> <li>・子ども同士で会話できるよう、ペアの組み方を工夫する。</li> <li>・話しにくそうにしている時は、教師が仲立ちをして会話のきっかけ作りをする。</li> <li>・グループの役割を決める場面では、個にあった役割分担ができるよう助言する。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3、4人の集団の中で、落ち着いて1時間程度の活動に参加することができた。</li> <li>・活動をきっかけにして友達との距離が縮まり、話ができるようになった。</li> <li>・気持ちを伝えることへの抵抗が減り、出来事を自分から教師に話すようになった。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験が少ない生徒なので、これからも集団の授業への参加を増やして経験の拡大を図る。</li> <li>・ルールを忘れやすく定着にも時間がかかるので、文字に書いて示す。</li> <li>・活動を計画する時には、場面設定や役割分担を考え、生徒に活動の目標を明確に示す。</li> </ul>